

■ 協力して育つ 共に育つ 響いて育つ 子どもの夢育て（笠縫小学校）

1 【活動の趣旨】

学校と地域・家庭が連携して子どもたちの学びをより豊かなものにするとともに、地域の自然や文化や産業に触れることで、その良さを知り伝えられる子どもの育成とその仕組みづくりを目指し、学校と地域が二人三脚で地域協働合校事業を進めている。



2 【特徴的な活動内容】

○「アオバナはかせになろう！」（3年生）

3年生の総合的な学習の時間で、地域の伝統産業である青花紙用のアオバナを栽培する最後のお一人である「アオバナ栽培の名人」を招き、苗の植え方や世話の仕方を教えていただいた。また、育てた花を摘み、伝統的な方法で和紙を染めて青花紙を作る体験をすることもでき、地域の産業についての理解を深めることができた。さらに、アオバナを使った葉を草津駅の利用者に配布し、地域の人にもアオバナに関心をもってもらうよう働きかけた。

【ツナガリ祭りで園児と交流】

○「笠縫の歴史とこれから」（6年生）

6年生の総合的な学習の時間では、まちづくり協議会の方から、学区の伝統や課題について話を聞き、学習課題を設定した。ユネスコ無形文化遺産に登録された「サンヤレ踊り」やまちづくり協議会内の組織「ツナガリ隊」などに関心をもち、ゲストティーチャーを迎えて話を伺ったり、自分たちで調べたりして地域について理解を深めたうえで、自分たちに何ができるかを考えた。学習の終盤には、創立150周年記念の学習発表会で学習成果を全校児童や地域・保護者に発表したり、まちづくりセンター内で地域との交流イベント「ツナガリ祭り」を企画・実行したりした。

3 【実施に当たっての工夫】

年度や学期初めに、学習支援をお願いしたい内容について、学年と地域コーディネーターとで打ち合わせを行い、学習の展開や人材の確保に見通しを持った。

4 【事業の成果】

- ・学習の成果を地域に向けて発表したり、啓発・活動と一緒にしたりしたことで、達成感や自己有用感を味わうことができた。
- ・授業支援については、専門的な視点を生かした話を聞いたり、体験したりでき、子どもたちの学びが深まった。

5 【事業実施上の課題・今後の連携・協働活動実施に向けて】

- ・ボランティアとの授業前の打ち合わせによって、授業はスムーズに進むものが多かった一方で、授業後のふり返りの時間を取ることは難しかった。地域コーディネーターやボランティアが入れ替わっても、人材との連絡や段取り等が引き継げるように、記録の方法を工夫していくことが必要である。
- ・継続してボランティアに協力してくださる方がいるものの、学習を進める上で必要な人材を新たに発掘していく必要がある。